

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



かじ た けん ぞう
梶田 健三 さん

今回は市内を歩き回り、至るところで見つけた昆虫や野鳥、植物等の写真を撮っている梶田健三さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、梶田さんがまち歩きを始めたきっかけについて教えてください。

梶田：きっかけはほんとに普通なんです。血糖値が高くなっちゃったんで運動しなきゃと思って。歩くのがいいって聞いたんで、まずは散歩してみようかって始めました。で、また別のきっかけで写真を撮ることも好きになって、それが合わさって今の活動になってますね。

情：なるほど。梶田さんは市民記者(※)としても活動されていますよね。散歩中に見つけた長久手の自然の記事を書いてくださったっている。記事を読むたびにその知識量に驚かされるのですが、もともと植物とか野鳥昆虫とかに詳しくかったですか？

梶田：全然そんなことないですよ。最初は調べてばかりでした。知れば知るほど散歩の楽しみも増えるんです。「珍しい鳥いないかな」「もうすぐあの花が咲く頃だけど、どうだろう」って。それで、長久手の自然にもだいぶ詳しくなりました。

情：私も梶田さんの記事のおかげで、ちょっとずつ長久手の自然に詳しくなってます。

梶田：そうやって言ってもらえるのも続けられる秘訣ですね。散歩中に撮った写真を誰かに見てもらえると思うと散歩に張り合いが出ます。役割ややりがいがないって言うのと大げさかもですが、誰かのためになるっていいなって。

情：確かに、自分のしたことを誰かに見てもらえる、知ってもらえるっていいですよね。「健康」「知識」「やりがい」。「二石」「鳥」「ころか」「三鳥」ですね。それに市としても、散歩をしてもらえるのってすごくありがたいんですよ。「地域の目」が増えれば、犯罪の抑制になりますから。

梶田：それだけじゃなくて、新しい知り合いも増えたんですよ。バードウォッチングをしていると、知らない人がいい観察ポイント教えてくれて。今度は私が花のことを教えて。そんなことを繰り返して、うちについてのか仲良くなりました。あの子が散歩をはじめたよかったです。得るものがたくさん

ありました。まずは散歩くらいならできかなって軽い気持ちで始めたのがよかったですね。最初から大きな目標を立ててたら途中で挫折しちゃったかもしれないです。

情：たしかに「まずはやってみる」の精神で、簡単なところから挑戦していくのって成功の鍵だったりしますよね。長久手市も「まちづくり、まずは笑顔でこんにちは」というキャッチフレーズもあるくらいですから。それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

梶田：この記事を読んで、「散歩がまちづくり！」って思われる人もいると思います。「まちづくりがそんな簡単なわけないだろう」って。確かに、私も「まちづくりに参加するぞ」という思いで、散歩を始めたわけではありません。でも散歩をしているうちに、長久手に愛着がわいて、それをみなさんにお届けしたいなって市民記者をやった。趣味のつもりが、いつのまにか、まちづくりに参加してました。そういう参加の仕方もありなんじゃないかなって思います。例えば、私は市民記者として市の自然を

※1…長久手市の魅力や課題など、日頃まちの中で、見たり聞いたり感じたりしたことを記事にし、それを市民記者ブログへ投稿する制度です。



市民記者ブログはこちら

梶田さんをはじめ、ほかの市民記者さんの記事も読むことができます。



Weeklyながくてはこちら

「Weeklyながくて」でも梶田さんの活動の様子を取材しています。

